篠崎文化プラザ 第15回 企画展示

2011.12.23(金・祝)▶2012.3.11(日)

入場無料

江戸川区 先人からの贈り物

伝えたい、いにしえの心

江戸川区の文化遺産

一之江名主屋敷
江戸時代へタイムスリップ？初代当主は彫師

影向の松
日本一の松は室町生まれの600才？

篠西小学校跡
区内初の公立小学校は、寺子屋生まれ

主催：江戸川区／篠崎文化プラザ指定管理者篠崎SAパブリックサービス
協力：一之江名主屋敷・善養寺・影向の松・篠崎寺・妙善寺・宗教法人・篠崎なしの会・文化財愛と勇気ボランティア
神輿車ボランティア・白鳥地区会・上宮堂・愛もこサ・教科書資料館

しのざき文化プラザ

しのざき文化プラザ 3F 企画展示ギャラリー

江戸川区篠崎町 7-20-19 3F　TEL.03-3676-9071（代）
都営新宿線・篠崎駅西口直結　開館時間／9：00～21：30
www.shinozaki-bunkaplaza.com　休館日：12/30・31・1/1

一之江名主屋敷のルーツ

一之江名主屋敷は、江戸初頭に開墾された一之江新田の名主を務めてきた田島家の居宅です。初代田島図書英丈は、もともとは堀田図書という名の豊臣家の家臣で、豊臣の敗戦により田島庄兵衛方を頼って関東に下り、農民となりこの地を開墾したと伝えられています。主屋は江戸中期に再建されたものですが、曲り家や長屋門など、創建時の屋敷構えを伝える名主の屋敷としては都内唯一のものであることから、昭和29（1954）年東京都の指定史跡に、昭和56（1981）年江戸川区登録史跡になっています。建物は平成元（1989）年より復元修理され、茅葺き屋根も葺き替えを終え、現在は一般公開されています。

★一之江名主屋敷の見学★毎週月曜日と12月28日～1月8日を除く、10～16時まで見学可能。
入館料100円（中学生以下無料）

江戸時代からの歴史が息づく
一之江名主屋敷

今の春江町が、まだススキやヨシが生い茂る湿地帯であった江戸時代の初め。
ところどころに棒が点在する通称「棒っ原」を開墾していったのが、
一之江名主屋敷の初代当主、田島図書でした。
田島家はその後、一帯の名主を務め、年貢などを管理する
村のまとめ役として人々の尊敬を集めていました。

江戸川区初の公立小学校
葛西小学校

善照寺：真言宗豊山派善照寺は、天平（てんぴょう）年間（729－749）にはすでにあったとされる名刹。元禄（げんろく）12（1699）年、境内で横綱明石志賀之助の引退相撲が行われたことから、相撲寺とも呼ばれ、不動尊の縁日には草相撲が開催されていました。

江戸川区で最初にできた小学校は、東小松川にある善照寺（ぜんしょうじ）の本堂を借りて開校された葛西小学校でした。正式には第十一大区第六中学区第二十番小学葛西学校といいました。先生は3名、生徒は106名（男子81名、女子25名）。当時は下等4年、上等4年の8年制の学校でしたが、8年も学校に通える子どもは少なく、明治11（1878）年からは6～14歳の間に4年通えばいいことになりました。半年ごとの試験で8級から1級に進み、年齢に関係なく、先に進める子どもはどんどん上の級に進むことができました。生徒数が増え、狭くなった善照寺から葛西小学校が新校舎（東小松川村4411番地・現 東小松川2-2付近）に移ったのは明治14（1881）年のことです。

初代校長：葛西小学校の初代校長は、なんと26歳の若さで就任した南合義彦先生でした。

数々の逸話が残る善養寺

昭和 54（1979）年に、某テレビ番組で紹介されたことから、影向の松と香川県志度町の「岡の松」のどちらが日本一かという議論が勃発しました。その際、檀家である当時の大相撲立行司、木村庄之助が仲裁に入り、東の横綱は影向の松、西の横綱は岡の松と名裁きでことをおさめました。この話を聞き、地元出身の元横綱栃錦（当時は春日野理事長）が巨大な綱を作り奉納することを約束。この写真は昭和 59（1984）年9月6日、奉納の際に撮られたものです。

明治 37（1904）年に制作されたパンフレットにある通り、善養寺はその昔、影向の松とともに星降りの松でも有名なお寺でした。山号である星住山のいわれを伝える星降りの松は、昭和 15（1940）年の台風で倒れてしまうまで、樹齢600年、高さ30mという威容を誇り、東京湾からも見えたといいます。第9世住職が修行を行っていたところ、最後の日に天から明星が降り光り輝いたというのが、星降りの松に残る伝説です。現在の星降りの松はその2世です。

室町時代末期の紀行文にはすでにその名が記されている善養寺は、天文7（1537）年、山城覆蘭山の老僧覆澄法師が堂宇を建てたのが始まりと伝えられています。星降りの松や杖先十石など数々の逸話が残る古寺には、文人墨客も足を止め、多くの信仰を集めたといいます。

祝！国の天然記念物に指定
善養寺
影向のマツ

一之江名主屋敷 昔ばなしの会 語り部

山本国子さん

その世界観を体感しながら昔ばなしが聞ける貴重な場所。

昔ばなしの世界観がそのまま残っている、名主屋敷の囲が裏端で昔ばなしができることに大きな喜びを感じています。ディズニーは知っていても、日本の昔ばなしを知らないというのは寂しいことです。先祖が綿々と語り継いでくれた話を、私たちの代で途絶えさせるわけにはいかないと思っています。故郷である江戸川区の民話も掘り起こし、話していきたいですね。

★一之江名主屋敷　昔ばなしの会★毎月第2土曜日開催
参加費は入館料おひとり100円（中学生以下無料）
詳細・申込みは教育委員会文化財係 03-5662-7176まで

影向の松　善養寺

名取和弘 住職

たくさんの恵みによって
松も人も生かされているのです。

池の埋立てや盛土など、松が枯れかけた要因にはさまざまなものが挙げられます。ただ、あらためて思うのは、松はそもそも当たり前に元気だったわけではないということです。水や風などの恵みを受け松は生かされ、私たち人間も同様に周りの支えがあって生かされているのです。600 年以上を生きた影向の松は、そんな生命の象徴のように思います。

一之江名主屋敷　第15代当主

田島敏幸さん

地域の手で守られている
先祖からの預かり物。

妻が子どもの頃にはまだ、前を通る人たちは門に向かっておじぎをしていたそうです。ただ時代と共に雨漏りがし、屋敷林も荒れ、昭和50（1975）年頃からは、行事以外にここで寝泊まりすることはなくなっていました。都や区の協力により風格を取り戻した屋敷は今、多くの人々の手できれいに整備されています。先祖から預かった屋敷を地域で保存してくださることに、ホッとした思いでいます。

驚きいろいろ！区内の文化財

諏訪神社旧本殿

江戸後期の華麗なる神社建築

平井の諏訪神社は、享保年間（1716～1736）に徳川幕府の重臣が、当まの故郷の信州の諏訪大明神をここに祀ったのが始まりといわれています。天保14（1843）年に下平井村の人々が再建した旧本殿は、昭和42（1967）年の新しい本殿の完成により、仮に移動し解体社に保存されました。色彩やかで精緻な彫刻が施された建物は、江戸後期の神社建築の特色を色濃く残していて、第江類を誇です。

江戸川区指定有形文化財。平井6-17-24

昇覚寺鐘楼

地下から発見された！そろばん事業

鐘楼（鐘つき堂）は、梵鐘（釣り鐘）を吊るした元和 5（1781）年頃に完成したと推測されています。もともと浮堂かは女寺であったため、女性信者らが盛やかんざしを寄進して鐘に鋳こん だと伝えられています。昭和59・60（1984・1985）年の解体復元修理では、鐘楼の地下部分から「そろばん地蔵」と呼ばれる鎌倉地蔵特有の石塔が発見されました。底下を砕くため石を打ち込み、木組みをかや、石柱を立てた上に礎石が乗せられる、この基礎工事は鎌倉以外ではあまり例のない貴重な遺構です。

江戸川区指定有形文化財。東葛西7-23-17

松本弁天臥竜の松

江戸時代から知られていた雅な老松

臥竜の松がある弁天社は、寛文年間（1661～1672）に摩訶耶山正福寺社が創建した寺です。その境内に広がる臥竜の松は、樹齢 300 年と推測されるクロマツ。高西 16.5m、幹周 18.4m の枝振りは実に見事で、その美しさは古くから知られていました。文政 8（1821）年の「葛西志」や文政 11（1828）年の「新編武蔵風土記稿」には雅のような老松の姿が珍しいと絵入りで紹介されています。大正時代の大風により幹が折れ、現在の姿になっています。

江戸川区指定有形天然記念物。松本1-8-14 弁天社

天祖神社本殿

鳴や雷が描かれた茅葺き屋根の神社

旧平井村の鎮守であった天祖神社は、創建年代は不明ながら、「新編武蔵風土記稿」に「貞享 4（1687）年に再興」とあることから、それ以前より祀られていたと考えられています。本殿は今では珍しい茅葺き屋根で、江戸末期の貴重な建造物です。屋根が反った三開社風の造りで、茅葺きは鋼板で覆ってあります。外壁面には龍、鳴に雷、鳴、鳥など、鳥や獣を題材にした彫刻を屋根が飾られています。

江戸川区指定有形文化財。平井7-28-5